

ればいけなかった。仕事が忙しくなると、こうした仕事は多くなるのは必然であり「ついでにお願い」ができないのは結構辛い場合があった。当たり前といえば当たり前なのだが、体験してみても分業の有難さを実感、アダム・スミスの偉大さを再確認した。

むろんメリットも少なからずあり、恩恵を受けたのも事実である。通勤に関わるコストや時間および労力の削減は筆者のみならず会社にもメリットがあったといえる。さらに高齢化社会をむかえ、親の介護など

のためにフルタイム勤務が困難な有能な人材を有効活用する方法でもあり、今後ますます広がっていくであろう。しかし、筆者は入学前に作成した事業計画ほど成果を上げることが出来なかった。その事実をどの様に据えるか。また、筆者は周りに迷惑を掛けながら仕事を進めていくタイプであり、一人でコツコツと進める仕事には不向きであることを再確認した。結局のところ、個人の向き不向きの資質の問題なのであろうか。

(財団法人 日本総合研究所)

「起業ネットかなざわ」のNPO法人化に際して

山内 司

学生と若者層を対象とした起業支援を目的とするNPO、起業ネットかなざわが、さる平成12年5月にNPO法人(特定非営利活動法人)として石川県で13番目の認証を受けた。

起業ネットかなざわは、私をはじめ、金沢大学や他大学の大学院生、学部生、そして社会人を中心に運営しているNPOである。

そこで ①法人化について②‘起業’について③起業ネットかなざわの今後について この3つを中心にまとめていこうと思う。

①法人化について

従来の営利を目的としない任意団体、例

えば既存のボランティア団体などが法人化するにあたってのメリットは数多い。例えば、法人として賃貸契約などを結べる、法人名で銀行口座が持てる、などである。

しかし起業ネットかなざわは、そういった実務的なメリットよりも、運営者の自覚の喚起、対外的な信用力、といった面のメリットに注目した。そして、法人化が活動基盤を広げる起爆剤になることを期待して、法人申請に踏み切った。法人の名に恥じぬよう、今後も精力的に活動していきたい。

②‘起業’について

起業ネットかなざわは、起業を目指す人を支援する組織である。しかし起業ネットかなざわ自体も、ある意味では‘起業’の

一つのスタイルではないかと、私は考える。

つまり、起業、いいかえれば新しく事業を行なうには、必ずしも営利でやる必要はなく、非営利というやり方もあるのではないかと、ということだ。

起業という言葉をもつて顧客や受益者に奉仕し、社会に貢献すること、ととらえるならば、非営利という形でも起業は可能である。

このことは、学生や勤め人でも誰でも、本業を持ちながら、自分が社会に対して働きかけたい事を実行すれば、それが立派な起業になるということの意味する。

金沢大学でも、学生を中心に、いろいろな形で起業する人が増えてくることを望む。

③起業ネットかなざわの今後について

起業ネットかなざわの主な活動は、月に一回の月例会が中心である。起業経験者を講師役として呼び出して、自由な雰囲気で見聞交換し、参加者と一緒に起業について考えていこうというものである。金沢大学の学部生、院生はもちろん、他大学の人、社会人の人など、いろいろな人たちが参加

している。

私は、起業ネットかなざわの重要な役割は、‘場’の提供だと思う。一人一人のほんやりとしたアイデアやプランは、人との出会い、触れ合い、そして相互作用によってはっきりとしたものへと形づくられていく。起業ネットかなざわはこれからも、そういった‘場’を提供していきたい。

そもそも、地域経済活性化のためには若い層の起業マインドが大切、と実感したが、起業ネットかなざわの活動を始めたきっかけである。しかし活動の成果は1年や2年で表れるものではないと思っている。むしろ、10年後、20年後に、起業ネットかなざわの活動を通じて、将来の金沢や石川、北陸といった地域の経済を担う人材が育っていることを願う。私をはじめ、法人の役員や運営メンバー一同、NPO法人認証を機に、いっそう気持ちを引き締めて、使命を果たすべく努力していきたい。

(金沢大学大学院経済学研究科)

(起業ネットかなざわ代表)

編集後記

暑かった今年の夏も、ようやくおわろうとしています。今回は発行が予定より1ヶ月遅れてしまいましたが、この夏の猛暑に免じて許して頂けたらと思います・・・。(Y)

地域経済ニューズレター第54号
2000年8月23日発行

発行/金沢大学経済学部地域経済資料室
金沢市角間町(☎920-1192)

☎(076) 264-5438

編集/金沢大学経済学部
地域経済ニューズレター編集委員会

印刷所/金沢市昭和町2-2

(有)富士印刷社

☎231-2062